

本薬師寺西塔跡の発掘調査

現地説明会資料

1996年3月23日
奈良国立文化財研究所
飛鳥藤原宮跡発掘調査部

調査地 奈良県橿原市城殿町字トコ田281番地、278-5番地ほか
調査期間 1996(平成8)年2月1日～継続中(3月末終了予定)
調査対象 西塔跡土壇および南面回廊部
調査面積 約600㎡
調査目的 西塔および南面回廊の遺存状況の確認と規模・構造の解明

1. 検出した主な遺構

(1) 西塔

- ①塔心礎：土壇上に残る唯一の礎石。一辺約2.1mの不整形で厚さ約80cm。上面は平坦に整え、中央に直径40cm、高さ10cmの出枿を作る。心礎南寄りの抜取り穴状の土坑は、礎石下面近くまでおよび、その中に瓦が入っている。抜取り、あるいは盗掘によるものと思われるが、心礎はほぼ原位置を保っている。
- ②基壇：高さ約1.6m、版築によって造る。基壇規模は一辺約13.5mに復原される。
- ③礎石据付け穴：東南の四天柱と側柱の計2箇所を確認。柱間約2.4m。穴は、一辺1.2～1.5mの不整形。
- ④足場穴：基壇内東辺(心礎から5.8m)と南辺(心礎から5.5m)に計7箇所検出。直径約30～50cmの円形ないし楕円形。柱間は約1.5～2m。
- ⑤基壇外装：花崗岩地覆石、凝灰岩羽目石からなる壇正積と推定。心礎の東約7mに花崗岩地覆石2個(0.6～1m大)が遺存し、他は抜き取られている。
- ⑥雨落溝・犬走り：地覆石の外側に玉石組の雨落溝(幅約60cm、深さ約10cm)、その内側に玉石敷の犬走り(幅約75cm)がめぐる。
- ⑦階段：基壇の東面および南面の2箇所に確認。東面には原位置を保たないが凝灰岩製の踏石が遺存する。抜取り跡に凝灰岩製の耳石の一部などを投棄している。
- ⑧周辺整地：心礎から約18mの範囲に、褐色砂や凝灰岩粉末を含む整地層が広がる。
- ⑨石敷：雨落溝の外側に広がる石敷。縁辺は不明確。東塔では、心礎から約10.8mまで。
- ⑩参道：東塔と西塔をむすぶ東西方向の石敷参道(幅約3.4m)。約14m分検出。
- ⑪土坑：A～Eの5箇所ある。いずれも直径3mほどの不整形の土坑。
土坑Dには、多量の瓦と9世紀末～10世紀前半の土器、凝灰岩片などが含まれる。

(2) 南面回廊

- ①礎石据付け穴・抜取り穴：回廊基壇の築成土の一部が残り、礎石位置2箇所を確認した。礎石据付け穴は南北に2箇所あり、間隔は約3.8m。取り付きから3間目の東側一対の柱

位置にあたる。一辺約0.8mの隅丸方形。北側の据付け穴には抜取り穴がある。

- ②礎石落込み穴：調査区の東壁と西壁に各1個。中に花崗岩礎石(約1m大)がある。穴はいずれも1.7mの不整形。
- ③北雨落溝：回廊北側の柱位置から北約1.6mに位置し、幅約50cm。一部に縁石が遺存。
- ④土坑：土坑Hは回廊の西半分を破壊する。氾濫とそれとともなう整地によって形成されたと推定される。多量の瓦片と10世紀代の土器が出土。土坑Iは瓦片や凝灰岩粉末などで埋め立てている。
- ⑤水路：土坑Iの埋め立ての過程で設けられたもので、凝灰岩切石、花崗岩自然石、瓦をならべて縁とし、底に木板(幅20cm)を敷く。西端の凝灰岩切石を組み合わせた方形枅(一辺1m)へ流し込む。

(3) 下層遺構

本薬師寺造営前の遺構について、発掘区東寄りで調査区(南北14m、東西7m)を設定し調査を進めている。現在までに柱穴8個、土坑2基(土坑F、G)などを検出している。土坑からは、本薬師寺造営直前の時期の土器が出土している。前年度調査で検出した建物、塀などとの関連は、なお精査が必要である。

2. 出土した遺物

多量の瓦のほか、土器、金属製品、凝灰岩切石断片などがある。出土瓦は、大部分が土坑(土坑A～EとH・I)に廃棄されたものである。

- ①軒瓦：大半が創建時のもので、普通サイズの本屋根用のセットと、小型の裳階用のセットがある。筈の特徴などから新旧二時期のものがあり、東塔周辺と比べると新しい時期のものが多く。ほかに奈良時代、平安時代初めの瓦も少量出土。
- ②土器：10世紀代の土師器、中国青磁(土坑H)、下層土坑(7世紀代)出土の土師器など。

3. 調査成果

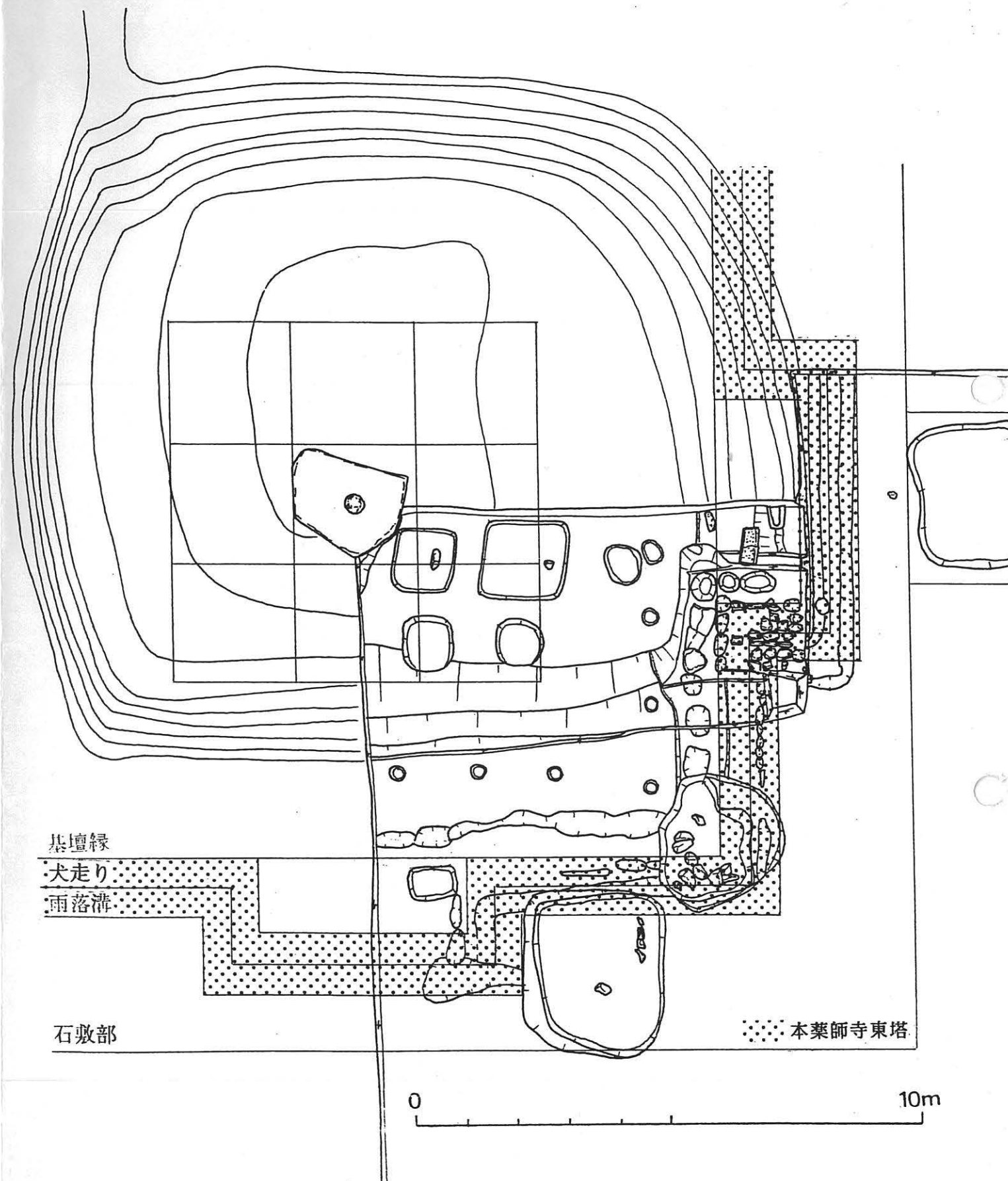
- ①西塔の建物規模は、本薬師寺東塔、平城薬師寺西塔とほぼ同一である。
- ②基壇周囲の犬走り、雨落溝、階段部の大きさが若干異なる。
- ③西塔は、出土瓦からみて主要堂塔の中では遅れて造営された可能性がある。
- ④塔心礎の下面近くまで瓦片の混入がみられるものの、心礎はほぼ原位置を保っていた。

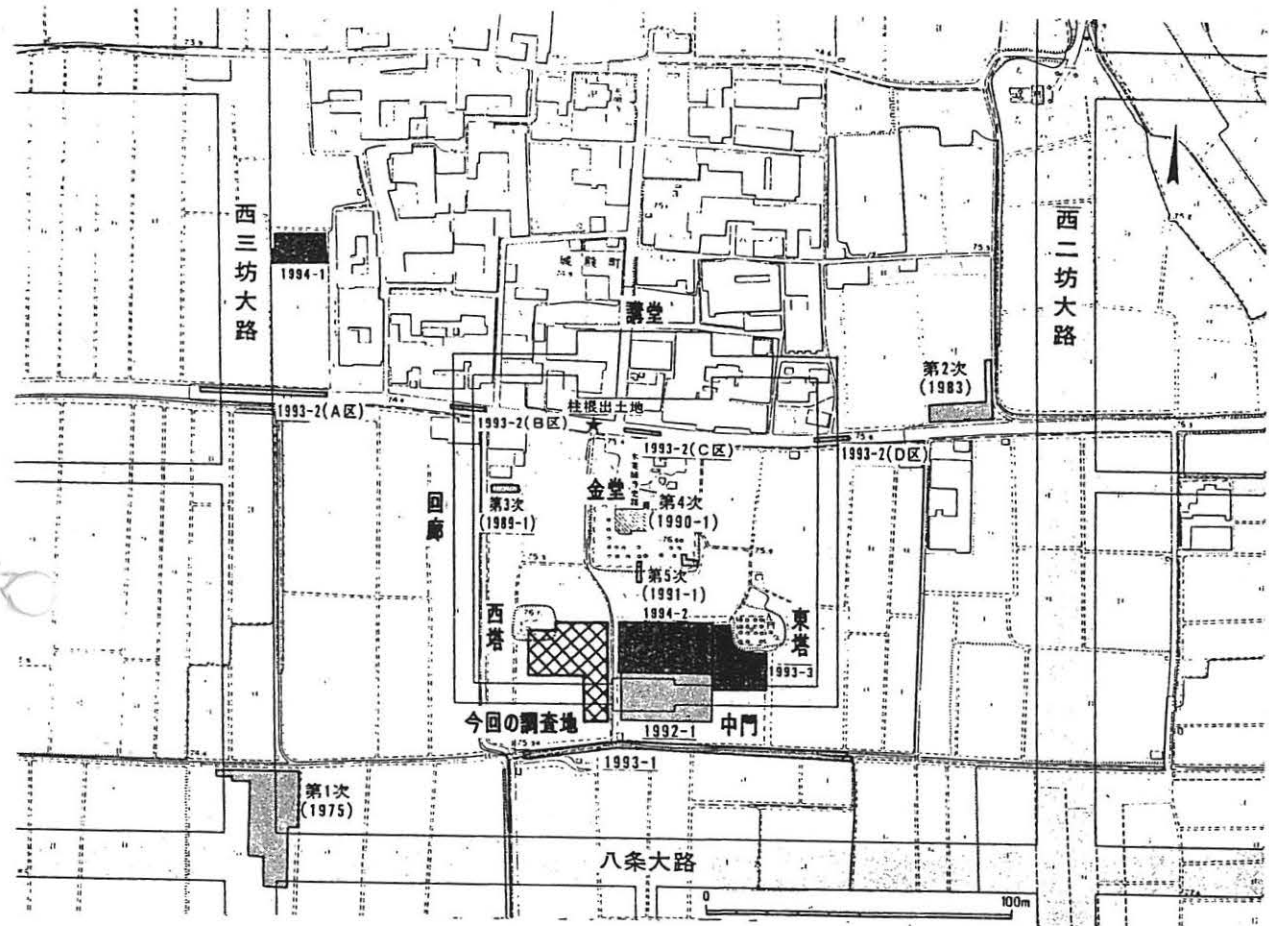
<本薬師寺と平城薬師寺の比較> (単位：m)

	基壇長/高	雨落溝幅	犬走幅	階段幅/出	石敷規模	参道幅
本薬師寺西塔	約13.5/1.6	約0.6	約0.75	約3.8/1.6		約3.4
〃 東塔	約14.2/1.45	約0.6	約0.6	約4.1/1.65	約21.8	約3.4
平城薬師寺西塔	13.65/1.4	約0.6	約0.6	約2.9/1.8	約20.8	

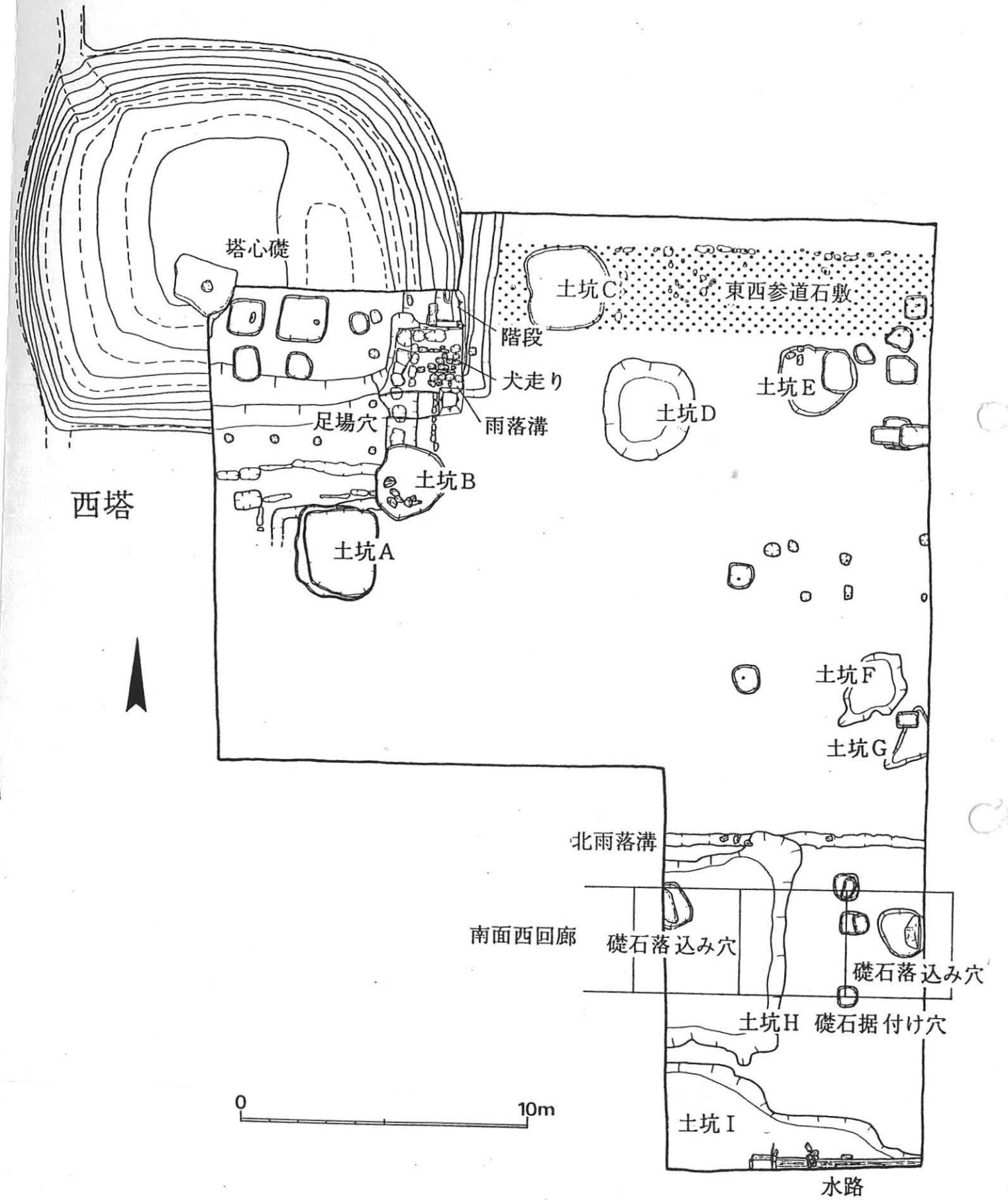
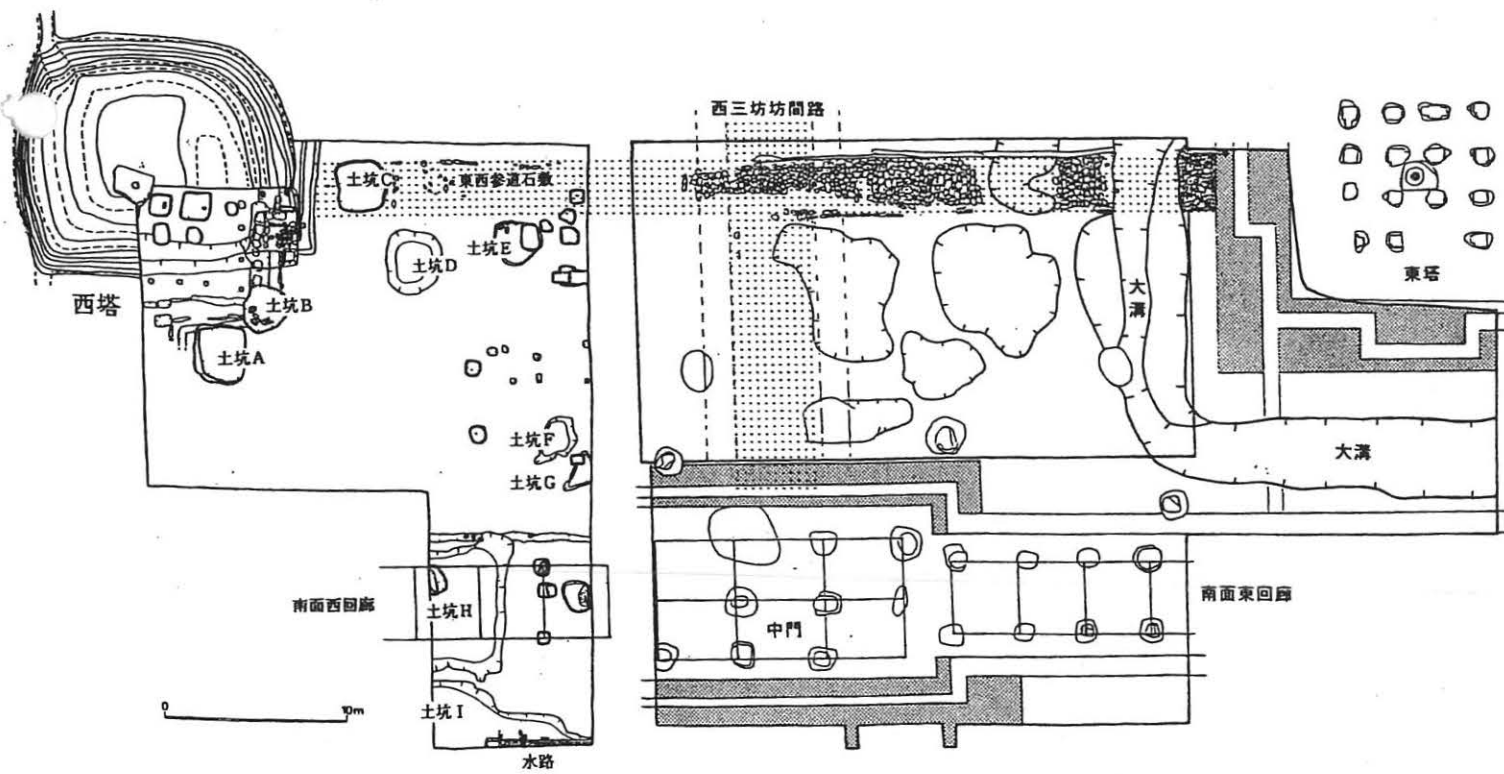
西暦	年号	月日	記 事
680	天武9	11.12	天皇、皇后のために薬師寺建立を發願（日本書紀）
682	天武11		天皇、皇后のため薬師寺を造る（七大寺年表・僧綱補任）
686	朱鳥元	9.9	天武崩御（日本書紀）
		12.19	天武天皇のために、大官・飛鳥・川原・小墾田豊浦・坂田の五寺に無遮大会を設ける（日本書紀）
688	持統2	1.8	薬師寺に無遮大会を行う（日本書紀）
692	持統6	4.12	天皇、先帝(天武)のため講堂本尊阿弥陀大繡仏を造顕（薬師寺縁起）
694	持統8	12.6	藤原宮に遷居（日本書紀）
697	文武元	6.26	天皇の病のため公卿百寮所願の仏像を造る（日本書紀）
		7.29	開眼会を行う（日本書紀）
698	文武2	10.4	薬師寺の構作ほぼ終わる（続日本紀）
		11.15	講堂阿弥陀大繡仏開眼の賞として道昭を大僧都に任ず(七大寺年表・僧綱補任)
701	大宝元	6.11	波多朝臣牟胡閉・許曾倍朝臣陽麻呂を造薬師寺司に任ず（続日本紀）
		7.27	造大安・薬師、二寺の官を寮に准ず（続日本紀）
702	大宝2	1.23	これ以後、僧綱の任命を薬師寺で行う（令集解）
		12.25	先帝(持統)のために四大寺に齋を設ける（続日本紀）
703	大宝3	1.5	先帝(持統)のため大安寺(大官大寺)・薬師寺・元興寺(飛鳥寺)・弘福寺(川原寺)に齋を設ける（続日本紀）
710	和銅3	3.10	始めて平城に遷都（続日本紀）
718	養老2		伽藍を平城京に移す（薬師寺縁起）
719	養老3	3.2	造薬師寺司に始めて史生二人をおく（続日本紀）
722	養老6	7.10	薬師寺を僧綱の住居とする（続日本紀）
730	天平2	3.29	東塔建立（扶桑略記）
732	天平4	10.17	粟田朝臣人上を造薬師寺大夫とする（続日本紀）
1025	万寿2	11.9	源経頼、本薬師寺に宿す（左経記）
1079	承暦3	10.5	薬師寺塔二基を法成寺にうつして供養（中右記）
1095	嘉保2	11.3	薬師寺僧長徳、夢告により古京本薬師寺を尋ね、塔の心柱の礎の中(または下)より舍利を掘り出す（七大寺日記・七大寺巡礼私記）
1096	永長元	5.21	藤原師実ら、本薬師寺塔跡より発掘の仏舍利をみる（中右記）
1098	承德2	10.12	藤原宗忠、本薬師寺より発掘の仏舍利をみる（中右記）
1106	嘉承元	8.21	本薬師寺の仏舍利を小塔婆に納める（中右記）

本薬師寺関係略年表





調査位置図 (1 : 2500)



本薬師寺西塔跡調査遺構配置図